

今年もおばけ屋敷などでPR

# 内陸線再生支援協議会だより

(問) 同協議会 阿仁支所内 ☎82・2111

存続が課題になっている秋田内陸線。この6月から市職員も乗車率アップに協力しようと、70人を超える職員が新たに定期券による通勤を始めました。また、沿線の各自治会でも乗車運動に取り組んでいます。



内陸線乗車運動へのご協力をお願いします

今年度の主な方針や、取り組み事例などについてお知らせします。

秋田内陸線再生支援協議会は7月14日阿仁支所で開催され、平成20年度の推進方針を承認しました。

見直しは、過去2カ年の実施結果から最終目標の達成が厳しい一方で、地方公共交通活性化法や新たな支援制度が制定・創設され、第三セクター鉄道の再生支援の方法が変更・強化されたことなどが理由です。

## 20年度再生計画の重点事項

秋田内陸線の存続のために不可欠な地元利用を一層促進する他、圏域間の交流に当たっても、再生支援協議会の構成団体である内陸縦貫鉄道

㈱と行政や住民等がそれぞれ役割分担し行動することになりました。重点事項は次の通りです。

- (1) 通勤定期利用者の利用拡大を推進する。特に北秋田市及び仙北市職員の利用定着を要請するとともに、利用拡大を図る
- (2) 乗車回数券の購入について、秋田内陸線再生支援協議会構成市村の自治会をはじめ住民団体の取り組み強化を要請する
- (3) 仙北市・北秋田市・上小阿仁村の沿線住民交流を図る。集客効果の大きい芸能や祭り、イベント等への参加呼びかけに加え、交流を通じお互いが2市1村の良さを再発見できる企画・イベント等を実現する
- (4) 園児、小中学生、高校生などのふるさと教育への活用を要請する
- (5) 内陸線沿線の観光情報発信に努め誘客を図る。具体策として、「秋田内陸線駅からアクセス」を増刷し観光PRに努める。観光協会や温泉施設と共同で誘客を図る。首都圏や関西圏、旅行エージェンツへの観光PRを強化する

## 内陸線おばけやしき

今年も、アンコールにお応えし、内陸線おばけやしきを開催することとなりました。

昨年は評判も良く、今年のおばけ



おばけ屋敷会場の内陸線阿仁駅前倉庫

期間は8月2日～10日、16日 時間 午後1時～6時30分 場所 秋田内陸線阿仁合駅前倉庫 入場料 小学生以上500円/内陸線利用者・森吉山荘宿泊の方400円 主催 内陸線おばけやしき実行委員会  
お問い合わせ 観光案内所 四季美術館 ☎0186753355

## 第2回秋田内陸線グラウンド・ゴルフ交流大会

9月上旬に、内陸線の利用促進と、沿線市村のグラウンド・ゴルフ愛好者の交流を目的とした第2回秋田内

陸線グラウンド・ゴルフ交流大会が開催されます。

前回はあいにくの雨でしたが、阿仁打当地区の、遊遊ガーデンで、総勢219人の参加のもと盛大な大会となりました。今回は、仙北市の田沢湖にある、仙北市縄文の森たざわこで開催されます。田沢湖の風景を楽しみながら、また、他地区の選手と交流を深めながらプレーしてみたいかがでしょうか。

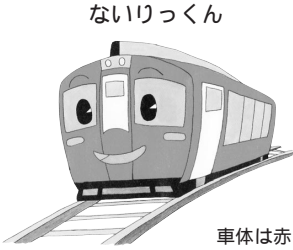
申込み方法 各地区のグラウンドゴルフ協会事務局へ申し込んで下さい



前回のグラウンド・ゴルフ大会

## 内陸線応援キャラクター『ないりっくん』

内陸線応援キャラクター『ないりっくん』のピンバッチが発売されました。名称は秋田内陸線エリアネットワークが市内の幼稚園児から愛称を募集して決まったものです。



車体は赤 エリアネットワークでは存続の地元機運を高めようとする『ないりっくん』のピンバッチを製作

し1個300円で販売を始めました。収益の一部は内陸線利用促進事業に活用されます。キラッと光る『ないりっくん』のピンバッチを身につけて一緒に活動しませんか。

お問い合わせ 秋田内陸線エリアネットワーク(大森代表) ☎09075206719

## 存続にむけて市長と意見交換

秋田内陸縦貫鉄道の存続を考える会

9月までの運動の盛り上げを確認

秋田内陸線の存続に向けて広く取り組みを行っている、秋田内陸縦貫鉄道の存続を考える会(佐藤信夫会長)が7月11日、阿仁支所で岸部市長との意見交換会を開き、岸部市長に内陸線の存続に向けた取り組みへの支援を訴えました。

秋田内陸縦貫鉄道の存続を考える会は、内陸線沿線自治会への回数券の購入呼びかけ、県議会議員への陳情など、乗車人員を増やすための運



「存続を考える会」と岸部市長と意見交換では、9月までの運動盛り上げを確認しました

動などを展開しています。

この日の意見交換会には考える会の役員や内陸縦貫鉄道㈱の社員など14人が出席。はじめに佐藤会長が、知事は9月までに結論を出したいとしているが内陸線の存続に向けては10団体ほどが積極的に活動しており、存続の機運を高めていきたい。市でも協力してほしい」と市長に対して支援を訴えました。

岸部市長は会の取り組みに感謝しながら、市職員も車での通勤を内陸線に振り替えるなど積極的に協力している。県議会でも特別委員会を設置したのをはじめ、県職員が乗車に協力するなど内外の支援が高まっているので心強い。中学校の通学利用が課題だがPTAとも調整したい」と答えるとともに、「存続後も運動の

成果を維持できなければ運営は難しいので取り組みを進めていただきたい」と協力を求めました。

意見交換では、考える会からの要請を受けて出席した合川自治会長会の鈴木正幸会長が、回数券の購入を各自治会に要請する準備を進めている旨報告し、共同で運動を進めたいと強調しました。

役員からは、中学生の通学利用を進められないか、回数券を柔軟に利用できるような工夫できないか、社員のサービス精神の向上が必要、各種団体職員や民間会社の社員などの通勤も要請できないか、空いている駅舎や倉庫を有効活用できないか、といった要望が出されました。

これに対し市長と縦貫鉄道の担当者、中学生の通学利用についてはPTAからバス利用の要望もあり調整が必要、回数券は特定の目的、割引で国の認可を受けているので商品券のように使用するのは困難、職員のサービスについて指摘されることがあれば注意する、小中学校やJAからは団体利用の協力をいただいている。空き施設は有効に利用してほしい。駅舎は切符の販売、管理も含めて受託いただきたい、などと回答。当面で運動の盛り上げていきたいと決意を述べました。